



9月13日、加茂小学校近くの田んぼでJA伊勢と地域住民協力のもと稲刈り体験が実施されました。

稲作体験学習は、自然に親しみながら農業の喜びや農家の苦労を体験し、食と農業への理解と関心を持ってもらうことや、加茂地区の主たる産業である米作りに触れることで郷土を愛する心を育むことを目的として毎年行われています。

収穫された稲は今年の4月に児童らが田植え体験で植えたもので、今後餅つき体験やしめ縄づくりに使われる予定です。稲刈り体験に参加した子どもたちは「初めてで大変だったけどたのしかった」と笑顔で話してくれました。

加茂小学校で毎年恒例の稲刈り体験



9月10日、鳥羽水族館で地震・津波避難訓練が行われました。

これは、近い将来予想される南海トラフ地震を想定して、初めて市民参加により行われたもので、水族館の職員と併せて約200人が参加しました。館内滞在中に地震が発生した想定で、それぞれが身を守る行動をとった後、職員に誘導されながら屋上まで避難しました。

訓練に参加した中村市長は「鳥羽を訪れるお客さんの安心にもつながる取り組み。訓練と改善を重ねてもらうことで、防災に強い観光地として鳥羽市全体の観光の安全につながれば」と今後に期待を寄せました。

鳥羽水族館で地震・津波避難訓練



8月31日、海女小屋はちまんかまどを運営する有限会社兵吉屋から、アワビの種苗放流事業に10万円の寄附をいただきました。

同社の野村一弘社長は「赤潮などの影響で厳しい状況のなか、アワビの育成や海女漁の継続につながれば」と思いを話してくれました。いただいた寄附はアワビなど水産資源の保護・育成を目的とした事業に活用する予定です。

種苗放流事業に寄附をいただきました



9月21日、とびっこ放課後子ども教室で、子どもたちが鳥羽まちなみ水族館に展示する作品作りに挑戦し、鳥羽小学校の1～6年生61人が参加しました。

子どもたちは図鑑やタブレットで検索した画像などを参考にしながら、空想の海の生き物を紙粘土で作り、最後に絵の具で色付けをして仕上げ「生き物づくり楽しかった!」「色塗りが難しかったけどうまくできた!」とうれしそうに話してくれました。

今回完成した作品は鳥羽駅連絡通路にて10月1日から展示される予定です。

まちなみ水族館の生き物づくり